

# 家庭生ごみ 地域で減量

## むつリサイクル事業開始



「ゆうあいむつ」に設置された生ごみ処理機。  
上部の投入口に生ごみを入れ、出来上がった  
堆肥を下部の取り出し口から回収する

家庭の生ごみを堆肥にリサイクルし、地域住民の家庭菜園などで使ってもらうむつの「地域循環型社会リサイクル推進事業」が22日、本格的に始まった。ごみの減量や市民のリサイクル意識を高める狙いがある。市町村主導の生ごみリサイクルは今月から同市と六ヶ所村で行われており、県によると、県内で初の取り組みという。

むつ市品ノ木のリサイクル事業者「ゆうあいむつ」の敷地に、青森市の「アーネットワークサービス」からむつ市が借りた生ごみ処理機を設置した。機械に投入した生ごみを微生物が

分解して、堆肥にする仕組み。出来上がった堆肥は、住民が持ち帰ることができ

る。品ノ木3町内会の32世帯が同事業への参加を申し込み、13日から試験稼働していた。(工藤洋平)

2016年度の市の内の燃えるごみ排出量は約2万トンで、そのうち生ごみは4割を占める。市は事業の経費として、本年度予算に196万円を計上。品ノ木地区での実績を基に、市内のほかの地域にも取り組みを広げたいと考え。ゆうあいむつで開かれた運用開始式典で、宮下宗一郎市長は、「ごみ処理にはお金がかかるが、生ごみは堆肥にすれば再び活用できる環境に優しいまちづくりへの取り組みを品ノ木から全国へ発信したい」と述べた。品ノ木町内会の高野文雄会長は、「リサイクルした堆肥を自分たちが使えるのは、いい試み。一人でも多くの住民が協力し、長続

## 処理機設置 堆肥化、持ち帰り可能